

## 令和7年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

誰もが安心して学び、自分を伸ばすことができる地域の学校へ

1. 知・徳・体の調和がとれ、自らを律することができる力を育む
2. 自ら考え、学び、行動し、未来を切り拓くことができる力を育む
3. 真心をもって他者と協働し、地域に貢献することができる力を育む
4. 共に学び、友と育つ力を育む

## 2 中期的目標

## 1. 安全で安心な学校空間づくりと学校魅力の向上 ～知・徳・体の調和がとれ、自らを律することができる力を育む

(1) 生徒指導の充実と支援体制の強化で基本的生活習慣の確立を図る。

- ア あいさつ、時間の遵守、みだしなみ、規律ある授業態度、美化活動、感謝の気持ちの定着・改善に取り組む。
- イ 学校と家庭が連携して、遅刻指導を推進する。

※年間遅刻者数を令和9年度にむけて2500回以下を維持する。(R4:2,171回、R5:3,595回、R6:3,146回)

(2) 支援教育の充実でいじめのない学校づくりを推進する。

- ア 教育支援委員会、担任、保健室など生徒情報の共有と相談体制を充実させ、3年間を見通したきめ細かい生徒指導を行う。
- イ 「ポジティブ行動支援」による「ほめる。認める。励ます。」を充実させ、笑顔を増やす。
- ウ 教育支援カード、個別の支援計画等を活用する。個別支援については、「合理的配慮」の観点から具体的な方法を講じる。
- エ スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、キャリアカウンセラーの活用継続とともに、「課題を抱える生徒フォローアップ事業」において学校における居場所づくりを充実させる。子ども家庭センターなどとの連携により生徒支援をさらに充実させる。
- オ いじめの防止、早期発見に努めるとともに、問題を見逃さずに組織的に迅速に対応することにより、他人を思いやる気持ちを育成し、人権感覚を身につけさせる。

※学校教育自己診断の「命の大切さや人権について学ぶ機会が多い」85%以上を維持する。(R4:83.9%、R5:88.7%、R6:85.7%)

## 2. 生徒の学力向上・進路実現を柱に「入って良かった」と思える学校へ ～自ら考え、学び、行動し、未来を切り拓くことができる力を育む

(1) わかる授業をめざし、授業力の向上に取り組む。

- ア 10年研チーム(10年経験者、ミドルリーダー)を核とした、日常的な自主研修から授業力向上につなげる。
- イ ユニバーサルデザイン(UD)を意識した授業、ICTを活用した授業を構築し、生徒の学習意欲をUPさせる。
- ウ オンライン学習、タブレットを活用した学習について、研修を充実させ向上を図る。
- エ 他の府立高校、支援学校、近隣市教育委員会、近隣中学校と連携し、公開授業、教職員研修を充実させる。
- オ 教員相互の授業見学を推進する。

※ 学校教育自己診断の「生徒の授業理解度」を令和9年度には75%以上を維持する。(R4:73.6%、R5:75.2%、R6:76.5%)

(2) キャリア教育を充実させ進路保障していく。

- ア 3年間を見通した系統的・組織的な進路指導体制の定着を図る。1・2年からガイダンスを行い、職業観を育成し、生徒一人ひとりの進路目標を確立する。また、学力向上を推進するための組織的な取組みを行う。
- イ 漢字検定やタイピング資格試験について引き続き全員受験を行い、さらなる上位級への挑戦を図る。
- ウ スポーツ科学専門コースの充実を図り、リーダーを育成する。

※ 卒業時の進路決定率を令和9年度に97%にする。(R4:100%、R5:100%、R6:100%)

※ 生徒・保護者の進路指導満足度を令和9年度にともに80%以上にする。

(生徒・保護者 R4:84.5%・74.5%、R5:84.4%・68.1%、R6:87.1%・78.1%)

※ 就職内定率は100%の継続をめざす。

## 3. 保護者・地域との連携、および行事・部活動等の充実 ～真心をもって他者と協働し、地域に貢献することができる力を育む

- ア 部活動・行事の一層の充実を図るとともに、環境整備に努める。また、部活動加入率を令和9年度には45%以上を維持する。(R4:39.5%、R5:44.7%、R6:45.2%)

イ 楽しい行事の実施を実現し、生徒が運営面においても経験を積むことができるよう指導する。

ウ 部活動や生徒会活動などで中学校や地域との交流、地域貢献することを推進する。

エ スポーツ科学専門コースの充実を図り、リーダーを育成する。(再掲)

オ 学校説明会・体験入学、中学校・塾などへの訪問活動で本校の良さを発信する。学校ホームページ(ブログなど)、広報グッズ(マスコットなど)、連絡ツールなどを充実させ、積極的に情報を発信する。PTAと連携し、保護者への情報発信を充実させる。

※ 学校行事への肯定率を70%以上を維持する。(R4:70.0%、R5:73.4%、R6:73.0%)

## 4. 共生推進教室の一層の充実とインクルーシブな学校づくりをすすめる。

ア 信太高校全体の活動を通じて、すべての生徒に「ともに学び、友と育つ」教育をすすめる。

イ 共生コーディネーター、進路指導部、学年が協力し、関係機関との連携で共生生徒の就労実現と自立に向けた取組みをすすめる。

## 5. 「チーム信太」で力を合わせて生徒を育てる体制づくり

ア 教職員相互の信頼・意思疎通、学校運営への参画意識を醸成し、「やってみよう」の精神でアイデア発案を増やす。教職員・生徒・保護者が一丸となって取り組む。「10年研チーム」やミドルリーダーには経験年数の少ない教員のメンターとして活躍させる。

イ 働き方改革に関する取り組み

部活動改革、全校一斉定時退庁日遵守、業務のデジタル化による業務効率化、時間外在校等時間減、休暇取得に取り組む。

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和7年12月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p><b>学校運営・環境</b></p> <p>○学校設備については、生徒・保護者・教員すべてで肯定率が75%を超えており、1人1台端末の使用や無線化などICT環境、特別教室・運動場・トイレ等の整備によって学習環境が充実していると捉えられている。</p> <p>○興味に応じた教育課程は教員93.8%と過去最高で、R4年度から3年かけて整えたカリキュラムへの信頼が高い。教育活動の特色は保護者72.6%と過去最高で、生徒の評価も全項目で過去最高となった。</p> <p>○地域からの信頼・期待も向上し、教員93.9%、保護者も改善し、SNS等での発信が理解促進につながっている。</p> <p><b>教育相談・人権</b></p> <p>○生徒に関する項目はほとんどが85%以上で、すべて過去最高となった。SC・SSWの来校や居場所カフェの実施など、生徒支援体制の充実が背景にある。今後も教員が相談の最初の窓口となれる環境づくりが重要である。</p> <p>○いじめや暴力等への対応も生徒・保護者・教員すべてで評価が向上し、生徒・教員では80%を超えた。年3回のアンケートや聞き取りを通じ、「いじめを許さない」姿勢が浸透していると考えられる。引き続き安全・安心な学校づくりと相談しやすい雰囲気の醸成に努める。</p> <p><b>学校生活</b></p> <p>○生徒・保護者・教員すべてで評価が向上した。生徒では「信太高校に入ってよかったと思う」を除く4項目が過去最高となり、特に「学校に行くのが楽しい」は10年ぶりに更新した。「学校に行くのが楽しい」「学校生活は充実している」は学年が上がるほど評価が高い。</p> <p>○保護者の「子どもは学校に行くのを楽しみにしている」も3年ぶりに上昇し、教員の評価も10%以上増加した。生徒の実態を的確に把握し、寄り添った指導に理解が得られていると考えている。</p> <p><b>学習・体験</b></p> <p>○全生徒の回答では、すべての項目で昨年度より肯定的な意見が増加し、7つの項目で過去最高の数値となった。「先生はテスト以外の様々な評価を取り入れて成績を出している」は92.8%と非常に高い値を示し、「授業を理解できている」はH27の59.5%から今年度83.1%へと大きく向上している。「興味がもてる授業が多い」も78.5%となり、継続的な授業改善の成果がうかがえる。</p> <p>○教員の「生徒にとってわかりやすい工夫ができています」も97.9%と高く、良好な学習環境が形成されている。一方、体験的な学習は60%台にとどまっているため、今後、体験学習の充実が課題である。</p> <p><b>進路指導・生徒指導</b></p> <p>○進路分野は学校全体で取り組み、生徒・教員ともに80%を超える高い評価となった。「進学や就職など将来の進路や生き方を考える機会がある」は3年生94.4%、1・2年生も90%超で、全学年で進路意識が定着している。「本校のコース制は力を伸ばし進路実現に役立つ」は3年連続上昇し過去最高、教員の評価も25.5%増加した。一方、「きめ細かな指導」は教員100%に対し保護者76.7%で差が16.3%から23.3%へ拡大しており、今後は発信方法を工夫する。</p> <p>○生徒指導分野では、「生徒指導上のルールを守っている」が生徒・保護者・教員すべてで90%を超え、保護者が90%を超えたのはH27以降初めてである。「学校の生徒指導の方針に共感できる」は2年連続上昇し、「学校生活についての先生の指導は納得できる」も3年連続で上昇し過去最高となった。「社会のルールや公共心について学ぶ機会が多い」も全立場で過去最高となり、生徒・教員が90%以上となったのも初めてである。一方、「自分は遅刻や頭髪等のルールを守っている」との差は29.9%から23.5%へ縮小しており、今後も丁寧な説明で差の一層の縮小を図る。</p> <p><b>特別活動・その他</b></p> <p>○部活動については、生徒・保護者・教員すべてで評価が上昇し、いずれも過去最高となった。生徒の「地域貢献やボランティア活動が盛んである」は12.2%増加し、3年連続で上昇して過去最高となった。</p> <p>○「家庭への連絡や意思疎通をきめ細かく行っていると思う」では、教員89.8%と高い値を維持し、保護者76.7%との差は18.1%から13.1%へと縮小。保護者の「授業参観や学校行事に参加したことがある」も4年連続で上昇し、学校行事の充実や広報活動の成果がうかがえる。今後は部活動の加入率向上に向けた活性化を進めるとともに、連絡ツールを活用し、保護者の利便性向上と教員の負担軽減を図る。</p>	<p><b>第1回 令和7年6月20日(金)</b></p> <p><b>【報告・議案】</b> 令和7年度学校経営計画及び令和6年度学校評価について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和6年度学校評価について経年変化を把握し、今後の学校計画の基礎資料とするため分析結果を説明</li> <li>(質問) 授業見学の際、分かりやすく丁寧に教えていると感じた。生徒に合わせた指導が出来る先生たちが集まっていると感じた。今回説明された経営計画に基づいた教育活動が、生徒たちにどのような変化をもたらしたのか明確に分かるように出来ないか。</li> <li>(回答) 授業アンケートや学校教育自己診断の指数で経年変化分析しているが、数値だけでなく表現を大切に説明責任を果たせるようにしたい。</li> </ul> <p><b>【意見交換】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(意見) 広報活動で、学校説明会では、教員が一方的に説明するのではなく、生徒が直接、中学生に説明する方が共感をしやすいと思う。</li> <li>(意見) 人権教育の一貫として、近年話題になっているブラックバイトや、デートDVについて、高校生自身の問題であるという意識を持たせて欲しい。他人のことという観点ではなく、被害にあっていることに気づかない事例もあるので、自分たちの問題であるという認識で繋げて欲しい。</li> <li>(意見) 学校のルールについて、生徒たちに考えさせる機会をつくるのが大事だと思う。指導するのみでは、あくまで上から目線となってしまう、生徒たち自身で理解することは難しい。</li> </ul> <p><b>第2回 令和7年11月14日(金)</b></p> <p><b>【報告・議案】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・<b>授業見学</b> (情報処理：3-1、3-6 政経：2-1、2-6 生物基礎：2-3 スポーツ科学コース：2年3年)</li> <li>・<b>説明</b> ①学校経営計画進捗状況 ②授業アンケート報告 ③進路状況 ④令和8年度使用教科書選定理由書一覧表</li> <li>・<b>議案</b> 学校教育自己診断について</li> </ul> <p><b>【協議内容・承認事項等(意見の概要)】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(意見) PBS(ポジティブ行動支援)について、廊下に生徒たちのポジティブな自己評価をシールで可視化していたが、とても良い教育活動だと思う。他の学年や他のクラスの動向が、一目瞭然となっており、生徒たち自身で啓発や刺激を与えると思う。</li> <li>(意見) 授業アンケートの経年変化が、少しずつだが右肩上がりなのは、教員がアンケート結果(数値・意見)のフィードバックを真摯に受け止め、分かりやすい資料作成やグループワークなど能動的な学習を取り入れている成果ではないか。</li> <li>(議案) 学校教育自己診断の質問項目を説明し、各委員からの項目に対して賛同を得た。</li> </ul> <p><b>第3回 令和8年1月31日(金)</b></p> <p><b>【報告・議案】</b> 令和7年度学校教育自己診断報告(分析結果について)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>→(質問) 質問項目「学校に行くのが楽しい」の回答結果が過去最高数値との説明があったが、その理由はどのようなものか。</li> <li>(回答) 10年ぶりに過去最高の数値を更新した。学校行事やクラスの活動など、生徒の主体的な取り組みを活かす工夫を教員側が配慮している結果が数値に反映したものである。</li> <li>→(質問) 質問項目「社会のルールや公共心について学ぶ機会が多い」について、90%以上の肯定的な高い数値が出ているのは、どのような理由か。</li> <li>(回答) 同質問に対しては、生徒・保護者・教員すべてにおいて過去最高の数値となっている。生徒に対して、学年団や担任、生徒指導部をはじめとする教員がきめ細やかな指導を行い、丁寧に個々の生徒に関わってきたことが、今回の数値に反映されたものと思われる。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業アンケート経年変化を報告。</li> <li>・41期生進路状況の報告。</li> <li>・令和8年度学校経営計画及び令和7年度学校評価を説明</li> </ul>

## 3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R6年度値]	自己評価
1. 安全で安心な学校空間づくりと学校魅力の向上	(1) 生徒指導の充実と支援体制の強化で基本的生活習慣の確立を図る。	(1)	(1)	
	ア あいさつ運動・服装頭髪指導。	ア 社会人基礎力の育成のため、生徒指導の目的を理解させたうえで、あらゆる場面で「あいさつ、時間の遵守、みだしなみ、規律ある授業態度、美化活動、感謝の気持ち」などの基本的生活習慣の定着・改善を推進する。 全職員による早朝の服装頭髪指導（月2回）を継続する。	ア・学校教育自己診断の「先生の指導は納得」60%以上を維持。[62.7%] ・学校教育自己診断の「自分は遅刻や頭髪等の生徒指導上のルールを守っている」90%以上を維持[92.4%] イ・年間延べ遅刻件数 2500 回以下を維持する。[3146 回]	ア・学校教育自己診断 69.9% (◎)  ・学校教育自己診断 93.4% (◎)  イ・年間延べ遅刻件数 2426 回 (◎)
	イ 学校と家庭が連携した、遅刻指導。	イ 遅刻カード、早朝登校、保護者との連携などを取り入れた遅刻指導を推進する。他学年の遅刻数も含めた遅刻数の速報を適宜公開し、生徒と教員の意識づけと士気を高める。		
	(2) いじめのない学校づくり	(2)	(2)	(2)
	ア 相談体制の充実。	ア 教育支援委員会、担任会、保健室等の中で生徒情報の把握を速やかに行い、支援内容などを、職員会議等において全教員で共有化する。	ア・学校教育自己診断の「教育相談が充実し悩みがあったときに相談できる先生が多い」70%以上維持する。[71.2%]	ア・生徒一人ひとりに応じた支援をきめ細かくすることができた。 学校教育自己診断 78.2% (◎)
イ 「ポジティブ行動支援」による指導。	イ 「ポジティブ行動支援」の取り組みを増やす。全体支援推進チームをつくり、研究、普及に取り組む。	イ・生徒主体の取り組みを学期に1回以上実施。	イ・昨年度から2年めの取組みとして、学期ごとに1回実施。(○) 「高等学校支援教育力充実事業「専門家チーム」の活用により大学の准教授による指導助言をふまえ、2学期以降の取組みを実施。生徒の主体的な取組みにするため、各クラス代表の生徒を中心に取り組むことができた。	
ウ スクールカウンセラーなど、外部人材・外部機関の活用。	ウ SC、SSW、CC、「課題を抱える生徒フォローアップ事業」など外部人材の協力を得て、専門的知識に基づいた生徒支援を充実させる。子ども家庭センター等の外部機関との連携で生徒支援を組織的に行う。	ウ・外部機関との連携を学期に1回以上実施。[学期毎に1回]	ウ・外部機関との連携を学期に1回以上実施。(○)	
エ いじめの防止。	エ 人権教育推進委員会、いじめ防止・対策委員会を中心に、「いじめアンケート」を活用し、いじめ防止、早期発見、問題を見逃さずに組織的に迅速に対応することを継続する。	エ・学校教育自己診断の「いじめや暴力のない学校づくり」「いじめ等を見逃さず対応」前年度水準を維持。[83.9%、80.5%]	エ・学校教育自己診断 87.9% (◎)  ・学校教育自己診断 87.5% (◎)	

## 府立信太高等学校

2. 生徒の学力向上・進路実現を柱に「入って良かった」と思える学校へ	<p>(1) 授業力向上。</p> <p>ア 10年研チームを中心とした授業力向上。</p> <p>イ ユニバーサルデザイン、ICTを活用した授業構築。</p> <p>ウ オンライン学習・タブレット学習の研修</p> <p>エ 公開授業、教職員研修を充実させる。</p> <p>オ 教員相互の授業見学を推進する。</p>	<p>(1)</p> <p>ア 10年研チームが10年経験者研修と連動させ、研究授業や課題解決型自主研修などを主催し授業力向上を図る。</p> <p>イ ユニバーサルデザイン(UD)、ICTを意識した授業力向上のための交流を他校と行う。UD授業推進リーダーの育成。</p> <p>ウ GIGAスクール委員会を中心に、1人1台端末等の活用について研究、普及に取り組む。</p> <p>エ 泉大津市教委との連携事業による公開授業・研究授業の実施および参加。</p> <p>オ 公開授業期間に相互見学を推奨。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・学校教育自己診断の「生徒の授業理解度」75%以上を維持。[76.5%]</p> <p>・学校教育自己診断の「様々な評価の工夫」80%以上を維持。[90.1%]</p> <p>・授業アンケートの「生徒の興味・関心」3.2以上。[第1回3.32 第2回3.32]</p> <p>・授業アンケートの「生徒の知識・技能」3.2以上。[第1回3.37 第2回3.36]</p> <p>イ・授業力向上のための他校交流を1回以上実施。[1回]</p> <p>ウ・学校教育自己診断「生徒が1人1台端末を効果的に活用できるように学校は取り組んでいる」80%以上を維持。[87.4%]</p> <p>エ・近隣中学校との情報交換、授業交流を1回以上実施。[1回]</p> <p>オ・公開授業週間を年2回実施。[2回]</p>	<p>(1)</p> <p>ア・学校教育自己診断83.1% (◎)</p> <p>・学校教育自己診断92.8% (◎)</p> <p>・授業アンケートの「生徒の興味・関心」第1回3.53 第2回3.50 (◎)</p> <p>・授業アンケートの「生徒の知識・技能」第1回3.57 第2回3.57 (◎)</p> <p>イ・授業力向上のため、すながわ高等支援学校との相互授業見学と情報交換等の交流を1回実施。(○)</p> <p>・UDを意識した学習環境づくりに学校全体で取り組んだ。</p> <p>ウ・学校教育自己診断89.7% (◎)</p> <p>エ・泉大津市立東陽中学校への出前授業、情報交流を2回実施。また、出身中学校の中学2年生対象とした学校紹介、高校生活状況を紹介するビデオメッセージを作成、提供。(◎)</p> <p>オ・公開授業週間6月、11月に実施。(○)</p>
	<p>(2) キャリア教育を充実させ進路保障をしていく。</p> <p>ア 3年間を見通したキャリア教育。</p> <p>イ 全生徒の資格取得の推進。</p> <p>ウ スポーツ科学専門コースの充実。</p>	<p>(2)</p> <p>ア・進路指導は、2年3学期を3年0学期と位置づけ3年1学期のスタートをより良いものにする。</p> <p>・「総合的な探究の時間」において、専門学校等の外部人材を活用し、職業観を育成する。</p> <p>・「学力生活実態調査」「基礎学力調査」の継続的な活用を行う。</p> <p>・進路指導部と学年の連携を密にし、卒業時の進路決定に向けて指導・支援を行う。</p> <p>イ 漢字検定、タイピング資格試験の全員受検を継続するとともに、英検の受検も推進する。</p> <p>ウ 専門コースとして学んだ知識、技術、戦術や練習に取り組む姿勢などを日常生活に反映させ進路実現の糧とする。</p>	<p>(2)</p> <p>ア・学校教育自己診断における「体験活動や体験学習が充実」55%以上。[61.4%]</p> <p>・生徒・保護者の進路指導満足度ともに80%以上維持。[生徒87.1%、保護者78.1%]</p> <p>・就職内定率100%の維持。[100%]</p> <p>・卒業時の進路決定率95%以上。[100%]</p> <p>イ・漢字検定3級以上の合格率前年度以上。[12.6%]</p> <p>・タイピング資格試験3級以上取得者を前年度以上。[25.4%]</p> <p>ウ・スポーツ科学専門コースの授業アンケート「興味・関心」3.70以上。[第1回3.8 第2回3.8]</p> <p>・スポーツ科学専門コースの授業アンケート「知識・技能」3.70以上。[第1回3.8 第2回3.9]</p>	<p>(2)</p> <p>ア・学校教育自己診断69.6% (◎)</p> <p>・生徒・保護者の進路指導満足度生徒87.1%、保護者76.7% (○)</p> <p>・就職内定率(100%) (◎)</p> <p>・卒業時の進路決定率(100%) (◎)</p> <p>イ・漢字検定3級以上の合格率(29.7%) (◎)</p> <p>・タイピング資格試験3級以上取得者23.6% (△)</p> <p>ウ・スポーツ科学専門コースの授業アンケート「興味・関心」第1回3.91 第2回3.86 (◎)</p> <p>・スポーツ科学専門コースの授業アンケート「知識・技能」第1回3.86 第2回3.77 (◎)</p>

## 府立信太高等学校

<p>3. 保護者・地域との連携、および行事・部活動等の充実</p>	<p>ア 部活動・行事の一層の充実、環境整備。</p> <p>イ 行事を楽しみ、運営経験を積むことができるよう指導する。</p> <p>ウ 部活動などで中学校や地域との交流を推進する。</p> <p>エ スポーツ科学専門コースの充実。(再掲)</p> <p>オ 積極的な情報発信と PTA との連携。</p>	<p>ア 誰もが部活動に入れるよう、部活動環境のさらなる整備と行事の充実を図る。</p> <p>・文化的活動推進のための、大学や専門学校による出前講座の実施。</p> <p>イ 楽しむ行事の実施(合唱コンクール、クラスマッチ)。学年規模の行事運営経験を積ませ、学校規模の大きな行事運営能力を育成する。</p> <p>ウ 近隣の福祉施設、地元商店街、近隣中学校、支援学校など各機関・団体との交流・連携を推進する。</p> <p>・地域清掃活動を再開。</p> <p>エ 専門コースとして学んだ取り組む姿勢を地域連携事業や学校行事などで実践する。</p> <p>オ 中学校や塾などへの訪問活動を推進する。学校ホームページ・ブログの充実、学校案内リーフレットの改訂、広報グッズの活用により、積極的に情報を発信する。</p> <p>・PTA と協力し保護者へ本校の取組み情報発信</p>	<p>ア 1 年部活動加入率 45%以上。 [1 年 51.3%, 全学年 45.2%]</p> <p>・学校教育自己診断での「学校生活充実度」70%以上維持。[75.4%]</p> <p>・出前講座を 1 回以上実施。</p> <p>イ 学校教育自己診断での「学校行事は楽しく行えるように工夫されている」前年度以上に。[73.0%]</p> <p>ウ 地域行事参加年間 5 回以上。 [5 回]</p> <p>・中学生対象部活動行事年間 40 回以上。[133 回]</p> <p>・地域清掃活動年間 5 回以上維持。[17 回]</p> <p>エ 学校教育自己診断「部活動が盛んで熱心に取り組まれている」前年比以上[88.7%]</p> <p>オ 校内での学校説明会年 5 回、体験入学満足度 100%を維持。[96.4%]</p> <p>・ブログ 80 本以上更新。[年間 90 本]</p>	<p>ア 1 年部活動加入率 1 年 52.2%、全学年 49.9% (◎)</p> <p>・学校教育自己診断 78.7% (◎)</p> <p>・近畿職業能力開発大学校 1 回、専門学校 2 回、出前授業実施。その他授業(家庭、情報、スポーツ等)で 10 回実施。(◎)</p> <p>イ 学校教育自己診断 78.3% (◎)</p> <p>ウ 地域行事参加年間 17 回 (◎)</p> <p>・各部中学生招待合同練習・体験活動実施 137 回 (◎)</p> <p>・地域清掃活動 3 回 (◎)</p> <p>回数、目標達成には至らなかったが、参加人数が今年の約 3 倍となったため、地域への貢献はできた。</p> <p>エ 学校教育自己診断 93.7% (◎)</p> <p>オ 校内での学校説明会年 5 回、体験入学満足度 100% (◎)</p> <p>・ブログ・SNS 更新 (40・158) 本 (◎)</p>
<p>4. 共生推進教室の充実</p>	<p>ア すべての生徒と「ともに学び、友と育つ」教育の推進。</p> <p>イ 共生生徒の自立に向けた取り組みを支援する。</p>	<p>ア 「障がい理解 HR」において、障がいのある生徒とない生徒が、あらゆる行事とともに参加することの大切さを教え、それに必要な配慮を行う。</p> <p>イ 共生コーディネーター、進路指導部、学年が連携し、関係機関との連携で就労を進める。</p> <p>・SST を取り入れた自立活動の授業を行う。</p> <p>・学校説明会等において、共生生徒が中心となり「ともに学ぶ教育」の説明や運営を行う。</p> <p>・自己肯定感育成のための活動を計画する。</p>	<p>ア 学校教育自己診断の「障がいのある生徒と『ともに学ぶ』教育」生徒、保護者ともに前年度以上。[生徒 85.2%、保護者 79%]</p> <p>イ 共生生徒の進路実現 100%をめざす[100%]</p> <p>・信太ファームにおいて、農作物の栽培や、作業を通して自己肯定感や達成感を持たせ、自立を促す。</p> <p>・生徒による情報発信や学校説明会等での説明の機会を設定する。</p>	<p>ア 学校教育自己診断 生徒 89.9%、保護者 77.6% (○)</p> <p>保護者には様々な機会を通じて、学校の様子を知らせる。</p> <p>イ 進路実現 (100%) (◎)</p> <p>・信太ファームにおける作業を通じて、達成感や自己肯定感の育成により自立へとつながった。(◎)</p> <p>・共生生徒が学校説明会にて、学校生活のことなどを紹介するなど、活躍できた。(◎)</p>
<p>5. 「チーム信太」体制づくり</p>	<p>ア 教職員のアイデアの発案を増やす。教職員・生徒・保護者が一丸となって取り組む。</p> <p>イ 働き方改革を推進。</p>	<p>ア 職員会議、教職員研修を通して、教職員の学校運営参画意識を高める。</p> <p>・カリキュラムマネジメント委員会を中心に、学校目標を実現するための教育課程を編成する。</p> <p>・経営推進費への応募、校長マネジメント経費活用など、学校運営アイデアを募集する。</p> <p>イ 業務の効率化について研究する。</p> <p>・月あたりの時間外在校等時間 80 時間以上の人数を減らす。</p> <p>・休暇休業制度の普及と年休取得の推奨。</p> <p>・部活動改革。生徒の多様な「学びの場」を確保しながら教員の業務負担の軽減を模索する。</p> <p>・全校一斉定時退庁日遵守、「大阪府における部活動等の在り方に関する指針」遵守、業務のデジタル化による業務効率化、超過勤務時間減、休暇取得に取り組む。</p>	<p>ア 学校教育自己診断の教員「学校目標が共有され、教育活動について日常的に話し合いがなされている」75%以上。 [83%]</p> <p>イ 時間外在校等時間月 80 時間以上のべ人数の割合を前年度値維持。[1.8%]</p> <p>・休暇休業制度の活用や年休が取りやすい職場の雰囲気づくり。</p> <p>・合同部活動「部活動大阪モデル」の活用。</p> <p>・時間外在校時間の全教員の平均前年度維持。[23h]</p>	<p>ア 学校教育自己診断の教員 73.5% (○) 昨年度より数値は低下しているが、推移をみると R 4 は 66%、R 5 90.8%となっており、年度ごとに増減しているため、今後も引き続き目標達成をめざす。</p> <p>イ 超過勤務時間 80 時間以上のべ人数の比率 3.0% (△)</p> <p>・休暇等を取得しやすい職場の雰囲気づくりに努めた結果、育児等に関する休暇等の取得者は計 9 名となった。(◎)</p> <p>・合同部活動「部活動大阪モデル」の活用により、効率的かつ効果的な部活動指導ができた。(◎)</p> <p>・時間外在校時間の全教員の平均は 25.2h (△)</p>